

生物課題マシントイム希望日等調査票

①○(都合がいい)又は×(実験不可能)を記入
 ②○と書いてもマシントイムを配分できない場合があります
 ③空欄に配分される場合もあります
 ④「備考」欄へは動物、細胞、微生物、組換え、BSL等(「細」など省略可)を記入

課題番号 19 J 999

課題代表者 稲毛 太郎

4月	都合		備考	5月	都合		備考	6月	都合		備考	7月	都合		備考	8月	都合		備考
	昼	夜			昼	夜			昼	夜			昼	夜			昼	夜	
1日(月)				1日(水)				1日(土)				1日(月)				1日(木)			
2日(火)				2日(木)				2日(日)				2日(火)				2日(金)			
3日(水)				3日(金)				3日(月)				3日(水)				3日(土)			
4日(木)				4日(土)				4日(火)				4日(木)				4日(日)			
5日(金)				5日(日)				5日(水)				5日(金)				5日(月)			
6日(土)				6日(月)				6日(木)				6日(土)				6日(火)			
7日(日)				7日(火)		○	↑	7日(金)				7日(日)				7日(水)			
8日(月)				8日(水)		○		8日(土)				8日(月)				8日(木)			
9日(火)				9日(木)		○		9日(日)				9日(火)				9日(金)			
10日(水)				10日(金)		○	細胞	10日(月)				10日(水)				10日(土)			
11日(木)				11日(土)		×		11日(火)				11日(木)				11日(日)			
12日(金)				12日(日)				12日(水)				12日(金)				12日(月)			
13日(土)				13日(月)				13日(木)				13日(土)				13日(火)			
14日(日)				14日(火)		○		14日(金)				14日(日)				14日(水)			
15日(月)				15日(水)		○		15日(土)				15日(月)				15日(木)			
16日(火)				16日(木)		○		16日(日)				16日(火)				16日(金)			
17日(水)				17日(金)		○		17日(月)				17日(水)				17日(土)			
18日(木)				18日(土)		○		18日(火)				18日(木)				18日(日)			
19日(金)				19日(日)		○	↓	19日(水)				19日(金)				19日(月)			
20日(土)				20日(月)		×		20日(木)				20日(土)				20日(火)			
21日(日)				21日(火)				21日(金)				21日(日)				21日(水)			
22日(月)				22日(水)				22日(土)				22日(月)				22日(木)			
23日(火)				23日(木)				23日(日)				23日(火)				23日(金)			
24日(水)				24日(金)				24日(月)				24日(水)				24日(土)			
25日(木)				25日(土)				25日(火)		○	↑	25日(木)				25日(日)			
26日(金)				26日(日)				26日(水)		○		26日(金)				26日(月)			
27日(土)				27日(月)				27日(木)		○	動物	27日(土)				27日(火)			
28日(日)				28日(火)				28日(金)		○		28日(日)				28日(水)			
29日(月)				29日(水)				29日(土)			↓	29日(月)				29日(木)			
30日(火)				30日(木)				30日(日)				30日(火)				30日(金)			
				31日(金)								31日(水)				31日(土)			

* 希望ビーム時間を明確にするため、下の「時間×回数」の欄に月ごと(MT利用申込票と重複しますが)、及びI期合計の必要時間×必要回数を御記入下さい。

4月 (時間×回数)*	h × 回	5月 (時間×回数)*	2h × 2回	6月 (時間×回数)*	3h × 1回	7月 (時間×回数)*	h × 回	8月 (時間×回数)*	h × 回
								I期合計 (時間×回数)*	2 h × 2 回 3 h × 1 回 h × 回

備考欄

組換え実験は行いません。
 月曜は講義のため不可。動物照射は準備に時間を要するので6月中旬以降でないとは不可能。
 動物照射3日後に採材のため生物実験室の利用を希望する。

記入上の注意

- 上記予定表の「都合」の欄に、○(都合がいい)又は×(実験不可能)を記入してください。
- マシントイムの配分調整の関係上、希望日以外にマシントイムを配分せざるをえない場合がありますので、実験不可能の日には必ず×印を付けて下さい。
- ビームが生物照射室に供給されない日や希望核種でない場合があります。「○」と書いてもマシントイムを配分できない場合があります。
- 細胞実験、動物実験、微生物実験、組換え実験(P1、P2、P1A、P2A)、バイオセーフティ実験(BSL2)などの予定(希望日)がわかる場合には考慮しますので「備考」欄に記載をお願いします。記載がない場合には、課題申請時の最大リスクを加味しての配分とさせていただきます。

生物実験 調査票

記入例

※生物実験を行うすべての課題で提出が必要です。別途問い合わせる事があります。

提出日：2019年1月31日

課題番号	19J 000		
課題代表者 (所属)	稲毛 太郎	(○○大学 ○○学部 ○○○○講座)	印
所内対応者 (所属)	放医研 一郎	(△△部 ○○室)	印

- 放医研で毒物、劇物、有機溶剤、特定化学物質等の薬品の使用予定はありますか？該当項目に記入してください。
 - ・使用予定：□ なし ■ あり (具体的に：ペンタバルビタール、10%中性緩衝ホルマリン液)
 - ・使用場所：■ 重粒子線棟 □ その他 ()
 - ・入手方法：□ 購入 ■ 他施設から持ち込み (○○大学)
- 実施する実験について、該当項目にチェックをしてください。(1)~(4) のいずれかを選択した場合は以下の該当項目にも記入してください。また(5)を選択した場合は具体的な実験内容を簡潔に記入してください。
 - (1) 動物実験
 - (2) 遺伝子組換え実験
 - (3) 研究用病原体実験
 - (4) 培養細胞を用いた実験
 - (5) その他の実験 (具体的に：)

(1) 動物実験について

(A) 使用予定実験動物 (1年間に使用する予定の動物について記入して下さい)

	動物種 ^{注1}	系 統 ^{注1}	匹 数	入 手 先 ^{注1}	放医研に搬入する 直前の飼育場所 ^{注1}	放医研搬入時の 微生物レベル (該当に○)	遺伝子組換え 実験の有無 (該当に○)
I 期予定	マウス	C3H/He	100	A動物業者	A動物業者	SPF CV	有・ 無
	マウス	C57BL/6J	100	B動物業者	B動物業者	SPF CV	有 ・無
II 期予定						SPF CV	有・無
						SPF CV	有・無

^{注1} 動物種、系統、入手先及び飼育場所については事前に放医研の許可を受けたものに限ります。

(B) 照射場所 (該当するものに印をつけて下さい)

- 重粒子線棟 生物 照射室
- その他^{注2} _____

^{注2} 所外の方は原則、使用できません。所内対応者と十分協議し、別途申請して下さい。

(C) 1 実験当たりの使用匹数及び飼育期間^{注3}

- 1 実験当たりの使用匹数及び実験希望回数： 100 匹/回 × 2 回
- 飼育希望時期及び期間 (「日間」、「週間」又は「カ月間」のいずれかに○印をつけて下さい)
 - 2019年 4月 ~ (照射前：約 1 日間 **週間** ヶ月間、照射後：約 2 日間 **週間** ヶ月間)
 - 2019年 5月 ~ (照射前：約 1 日間 **週間** ヶ月間、照射後：約 2 日間 **週間** ヶ月間)
 - 年 月 ~ (照射前：約 _____ 日間・週間・ヶ月間、照射後：約 _____ 日間・週間・ヶ月間)
 - 年 月 ~ (照射前：約 _____ 日間・週間・ヶ月間、照射後：約 _____ 日間・週間・ヶ月間)

^{注3} 飼育期間は原則、照射前後で計1ヶ月間を限度とします。

(D) 照射前後の希望飼育場所 (該当するものに印をつけて下さい)

- | | | |
|--------|--------|---------------------------|
| { | ■ 放医研内 | ■ 重粒子線棟 動物飼育室 |
| | | ■ 重粒子線棟 1階生物実験室 動物飼育装置 |
| | | □ 実験動物研究棟 ^{注4} |
| | | □ その他 ^{注4} _____ |
| □ 放医研外 | | _____ |

^{注4} 所外の方は原則、使用できません。所内対応者と十分協議し、別途申請して下さい。

(E) 1階生物実験室の使用希望（動物への実験処置・採材等で使用する場合）

- ①使用の有無：■ 有 □ 無
（照射約 _____ 日前、照射約 3 日後）

(2) 遺伝子組換え実験について

(A) 使用する拡散防止施設の場所（該当するものに印をつけて下さい）

- 重粒子線棟1階生物実験室
■重粒子線棟生物照射室
□その他 _____

(B) 使用の範囲（該当するものに印をつけて下さい）

- 細菌・真菌の使用
□認定宿主ベクター系 □非認定宿主ベクター等
■ウイルス・欠損ウイルスの使用
□動物の使用
□作出 □使用・飼育 □接種

(C) 拡散防止措置（該当するものに印をつけて下さい）

- P1 □認定系
□P1A □特定認定系
□P2
■P2A

(3) 研究用病原体等の取扱い実験について

(A) 取扱う場所（該当するものに印をつけて下さい）

- 重粒子線棟1階生物実験室
□重粒子線棟生物照射室
□その他 _____

(B) バイオセーフティレベル（該当するものに印をつけて下さい）

- BSL1 □ABSL1
□BSL2 □ABSL2

(4) 培養細胞を用いた実験

(A) 取扱う場所（該当するものに印をつけて下さい）

- 重粒子線棟1階生物実験室
■重粒子線棟生物照射室
□その他 _____

(B) 培養細胞にウイルス等の微生物の混入情報

- あり（混入微生物：○△ウイルス、バイオセーフティレベル：BSL2）
（微生物の混入細胞の具体的な取扱い方法：安全キャビネットでの操作、使用器具のオートクレーブ処理）
□なし

* 放医研内における動物実験、遺伝子組換え実験、研究用病原体の取り扱い実験の手続きや施設に関する詳細については、生物研究推進課に問い合わせ下さい。

連絡先：生物研究推進課 小久保 年章
TEL:043-206-3054 FAX:043-251-6404
E-mail: kokubo.toshiaki@qst.go.jp

記入例

動物実験計画書

量子科学技術研究開発機構 理事長 殿

西暦

提出日:2019年 1月 31日

該当する欄をチェック及び記入

西暦

 新規(2019年度) 変更(- -)

重粒子線がん治療装置等共同利用研究
(研究課題番号: 19J999)

放射線医学総合研究所					
動物実験 責任者	所属長 (所内対応者)	所属 部長等	生物研究推進 課長	動物実験委員会 事務局	受付番号
印	印	印			

研究課題名	〇〇の効果に関する系統差の比較研究
研究目的	<p>××として利用されている〇〇は、重粒子線の照射に対して、××に対する障害を軽減することが示唆されているが(文献△△)、マウスの系統差による効果の程度については、不明である。</p> <p>そこで、異なる系統のマウスに〇〇を投与後に重粒子線照射を行い、〇〇の効果に関する用量及び系統差についての評価を行う。また、将来実験予定である××疾患モデルとして使用する遺伝子組換えマウスについても、同様に実験を行い、条件設定を検討する際のデータの取得を行う。</p>

動物実験責任者名	穴川 四郎
所属	〇〇大学

動物実験実施者名及び所属
<p>穴川 四郎(〇〇大学)</p> <p>△△ △△(〇〇センター△△プログラム)</p> <p>〇〇 〇〇(△△プログラム)</p> <p>稲毛 太郎(××プログラム)</p> <p>▲▲ ▲▲(△△研究所)</p> <p>●● ●●(〇〇大学)</p>

実験実施期間	西暦(中長期計画期間内かつ最長5年度以内) 承認後 ~ 2023年3月	中止・終了等	西暦 年 月 日
施設等 (該当項目をすべて■)	■ 実験動物施設 : 重粒子線棟動物飼育室、1階生物実験室 △△棟×階マウス飼育室○ 飼育方法 : □個別飼育 ■群飼育(1ケージあたりの匹数:5匹)		
	■ 動物実験室 : 重粒子線棟生物照射室、実験制御計数室、1階生物実験室 △△棟○○実験室 動物実験室では、動物の飼育は不可		
特殊実験区分 (該当項目をすべて■)	<input type="checkbox"/> 放射性同位元素使用実験 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線照射実験 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子組換え生物等実験*1: <input checked="" type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A (実験計画書承認番号:H 30 - 99) <input type="checkbox"/> 実験計画書申請中 <input type="checkbox"/> 化学発癌・重金属実験・特定有害物質投与実験*2 <input type="checkbox"/> 研究用病原体等の取扱い実験(感染実験)*1(実験計画書受付番号:) <input type="checkbox"/> 実験計画書申請中 <input type="checkbox"/> 霊長類を用いた実験 *1 関連資料を添付すること *2 安全情報を添付すること		
動物実験の種類 (該当項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/> 試験・研究 <input type="checkbox"/> 教育・訓練 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入:)		
動物実験の代替 (該当項目をすべて■)	<input checked="" type="checkbox"/> 動物実験の代替を検討したが、 <input checked="" type="checkbox"/> 替わる手段はなかった。 <input type="checkbox"/> 代替手段の感度・精度が不十分であった。 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入:) 検討事項: <input type="checkbox"/> in silico による解析(コンピュータシミュレーション) <input checked="" type="checkbox"/> in vitro 実験(例えば培養細胞による実験など) <input type="checkbox"/> 系統発生的に下位の生物種への置き換え <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入:)		
使用動物数の削減 (該当項目をすべて■)	<input checked="" type="checkbox"/> 動物数削減のため以下の事項について配慮した。 配慮事項: <input checked="" type="checkbox"/> 求める結果を得るために必要かつ不可欠な動物数 (例えば適正な結果を得るために統計処理が必要で、その最小数など) <input checked="" type="checkbox"/> 同一実験の繰り返し数 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入:)		
動物に対する苦痛の軽減 (該当項目をすべて■)	<input type="checkbox"/> 動物にほとんど或いはまったく不快感を与えないので、苦痛の軽減処置をしない。 <input type="checkbox"/> 科学上の目的を損なわない苦痛軽減法はなく、処置を講じることができない。 (理由:) <input checked="" type="checkbox"/> 苦痛軽減のために以下の事項を実験方法の該当欄に記載した。 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔薬・鎮痛薬等を使用、使用薬物名:ペントバルビタール <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入:) <input checked="" type="checkbox"/> 適切な時期に安楽死措置などの人道的エンドポイントが必要なため、実験方法の該当欄に記載した。 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入:)		

理事長承認のページのコピーを提出
(申請中の場合は、許可され次第、提出)

<p>実験動物の安楽死方法 (該当項目をすべて■)</p>	<p><input type="checkbox"/> 麻酔薬等の使用 薬物名: _____ 投与経路: _____ 薬剤濃度: _____ 投与容量: _____</p> <p><input type="checkbox"/> 炭酸ガス吸入</p> <p><input type="checkbox"/> 頸椎脱臼 <input type="checkbox"/> 麻酔下ないし鎮静下状態で実施、使用薬物名: _____ <input type="checkbox"/> 実験上必要不可欠で、無麻酔で行う。実施は熟練者が行う。 (理由: _____)</p> <p><input type="checkbox"/> 断首 <input type="checkbox"/> 麻酔下ないし鎮静下状態で実施、使用薬物名: _____ <input type="checkbox"/> 実験上必要不可欠で、無麻酔で行う。実施は熟練者が行う。 (理由: _____)</p> <p>■ その他 (具体的に記入: イソフルラン麻酔下での心臓採血 _____)</p> <p><人道的エンドポイントを適用した安楽死> ■ 上記の方法と同様に行う又は可能性がある <input type="checkbox"/> 行う又は可能性があるが、上記の方法と異なる (具体的に記入: _____) <input type="checkbox"/> 行わない (行わない理由: _____) <input type="checkbox"/> 該当しない</p>
<p>動物死体の処理方法 (該当項目をすべて■)</p>	<p>■ 凍結保存後焼却(所内の所定施設にて凍結保存、焼却は外部委託) ■ ホルマリン液等で固定後標本として保存 <input type="checkbox"/> RI廃棄物として処理 <input type="checkbox"/> 外部業者に依託 <input type="checkbox"/> その他 (具体的に記入: _____)</p>
<p>実験動物導入申請の確認 (該当項目を■)</p>	<p>申請 ■あり □なし <input type="checkbox"/> 申請中 ■申請予定(〇〇大学) ■承認済み(受付番号: 18-A99 △△研究所) ■動物の輸送は専門業者に依頼する(予定輸送業者名: 〇〇運送)</p>
<p>その他必要又は参考事項 (該当項目を■)</p>	<p>麻薬の使用 <input type="checkbox"/> あり (以下に麻薬研究者氏名及び免許証番号を記入) ■なし (氏名: _____ 免許証番号: _____)</p> <p>実験動物の外部機関への搬出 <input type="checkbox"/> あり ■なし 遺伝子組換え動物 <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 動物の輸送は専門業者に依頼する(予定輸送業者名: _____)</p>

実験終了時の安楽死方法を記入。継続飼育、他機関へ搬出等の場合は、「その他」の欄にその旨を記入

人道的エンドポイント適用の有無及び方法について記入

複数の申請で状況が異なる場合は、わかるように記入

申請時に不明または未定の場合は、その旨を記載し、判明次第、生物研究推進課へ連絡

動物種	系統	遺伝子組換え	性別	週(年)齢	匹数	微生物学的品質			入手先 (導入機関名)
						SPF	CV	その他	
マウス	ICR	□	♂	5w	48	■	□	□()	株式会社〇〇
マウス	C57BL	□	♂	5w	48	■	□	□()	株式会社〇〇
マウス	〇-Tg(△△△)	■	♂	5w	48	■	□	□()	△△研究所
マウス	△-〇〇 tm 〇〇〇	■	♂	5w	48	■	□	□()	〇〇大学
		□					□	□()	

使用動物数
 搬入・導入時の週齢
 実際に使用する動物数

使用動物数の根拠:
 各系統とも共通で、〇〇、●●、△△、××の4群を設ける。また、1群あたり6匹とし、1回あたりの実験として、24匹使用する。なお、実験は、統計処理及び実験の再現性を考慮して2回ずつ実施する。
 使用動物数:6匹×4群×4系統×2回=192匹

<実験方法の概要>
 異なる系統のマウスに対して、〇〇処置後に重粒子線による照射を行い、照射後の一般状態観察を▲▲日間行う。その後、剖検及び採血を行い、臓器及び血液検査を実施して得られた所見をもとに、系統別の評価を行う。

実験操作毎に分けて記入

実験方法 (動物への処置、使用動物数は必ず具体的かつ簡潔に記入する)	苦痛の カテゴリ (処置毎)	動物の苦痛軽減・排除方法 (必要に応じて人道的エンドポイントを記入する)
実験1 〇〇投与による前処置 1) マウスを重粒子線棟動物飼育室(非組換えマウス)、1階生物実験室(組換えマウス)に導入する。 2) 飼育環境に適応させるため、1週間の馴化期間を設ける。馴化期間中の平日は、一般状態観察とハンドリングを実施し、導入日及び導入1週間後に体重測定を実施する。 3) 馴化1週間後の体重測定値をもとに、4群(1群6匹)に群分けを行う。 4) 〇〇(△△に溶解し、●●mg/mLに希釈)を、群毎に×mg/kg(低用量)、△mg/kg(中用量)、▲mg/kg(高用量)ずつフレキシブル・ゾンデを用いて経口投与する。なお、対照群は溶媒である△△のみを●mL経口投与する。 5) 投与後、1週間にわたり、平日の一般状態観察及び投与1週間後の体重測定を行う。一般状態及び体重推移で異常が認められなかった動物については、実験2を行う。なお、右記人道的エンドポイントに該当する動物及び実験2で使用できないと判断された動物については、イソフルランによる安楽死を行う。	B B B C	飼育や移動も苦痛のカテゴリを記入 実験に使用しなかった動物についての処置も必ず記載 人道的エンドポイントの指標は、具体的に記入 高用量投与群については、稀に予後不良となる可能性がある(文献〇〇)。この為、一般状態が悪化し、回復の可能性がないと判断した場合(自力で摂餌・飲水が不可能、立毛、うずくまって動かなくなる等)や投与1週間後の体重が投与前から20%以上減少した場合には、実験2では使用せず、イソフルラン過剰麻酔による安楽死を行う。なお、安楽死を行った動物については、全身臓器の検査及び血液検査(採血可能な場合)を実施する。

実験1

	動物数(全系統共通)
	♂
対照群(△△のみ投与)	6
〇〇 ■mg/mL投与群	6
〇〇 △mg/mL投与群	6
〇〇 □mg/mL投与群	6

実験1における使用匹数:6匹/回×4群×4系統×2回=192匹

使用動物数がすぐに計算できるように記載

実験方法つづき	苦痛の カテゴリー (処置毎)	動物の苦痛軽減・排除方法 (人道的エンドポイント)												
<p>実験2 重粒子線照射による影響評価</p> <p>1) 実験 1 で○○(または溶媒対照)を投与した動物を全て重粒子線棟 1 階生物実験室へ移動する。</p> <p>2) 重粒子線棟 1 階生物実験室でマウスをペントバルビタール 50mg/kg (商品名:ソムノペンチル)を腹腔内投与して、鎮静化させる。</p> <p>3) 鎮静化したマウスを照射容器に收容し、重粒子線棟生物照射室へ移動する。</p> <p>4) 重粒子線△△Gy で全身照射を行う。線量率は●●とし、照射に要する時間は、○分程度である。</p> <p>5) 照射後の動物を生物実験室にてケージに戻し、△△棟×階マウス飼育室○に移動する。</p> <p>6) 照射後の状態観察を▲▲日間行う。状態観察は休日を含む毎日とし、体重測定は 1 週間毎及び状態観察最終日に実施する。</p> <p>7) 観察期間終了後、動物を△△棟○○実験室へ移動する。</p> <p>8) イソフルラン麻酔下(導入 4%、維持1.5%)で速やかに開胸して心臓採血を行い、安楽死させる。</p> <p>9) 安楽死後、剖検を行い、全身の臓器の肉眼検査、及び血液検査(●●、▲▲、■■)を行う。また、○○、△△、□□については、臓器をホルマリン固定後に病理標本を作製し、組織学検査を実施する。これらの所見をもとに、△△照射に対する○○の用量及び動物系統差における評価を行う。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>局所照射の場合「非照射部位は真鍮製のコリメーターで遮蔽」の旨記載</p> <p>人道的エンドポイントとして、体重減少を指標とする場合は、体重測定頻度を必ず記入</p> <p>照射条件については、文献(△△)及び前中期計画期間中に実施した予備検討実験(15-1098-98)の結果に基づき設定した。</p> <p>放射線照射の影響として、観察期間中に○○、△△、□□等の所見が認められる可能性がある(文献△△)。この為、一般状態が悪化し、回復の可能性がないと判断した場合(自力で摂餌・飲水が不可能、立毛、うずくまって動かなくなる等)や前回の体重測定時から20%以上減少した場合は、速やかにイソフルラン過剰投与による安楽死を実施する。なお、安楽死を行った動物についても、全身臓器の検査及び血液検査(採血可能な場合)を実施する。</p>												
<p>実験2(実験 1 と同じ個体を使用)</p> <table border="1" data-bbox="145 1424 818 1628"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>動物数(全系統共通)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>♂</td> </tr> <tr> <td>対照群(□□のみ投与)</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>○○ ■mg/mL 投与群</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>○○ △mg/mL 投与群</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>○○ □mg/mL 投与群</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>実験1における使用匹数:6 匹/回×4 群×4 系統×2 回 =192 匹</p>		動物数(全系統共通)		♂	対照群(□□のみ投与)	6	○○ ■mg/mL 投与群	6	○○ △mg/mL 投与群	6	○○ □mg/mL 投与群	6		<p>動物実験に該当しない操作、安楽死後の操作等については、「非該当」、「-」等と記入し、空欄のままにしない</p>
		動物数(全系統共通)												
		♂												
対照群(□□のみ投与)	6													
○○ ■mg/mL 投与群	6													
○○ △mg/mL 投与群	6													
○○ □mg/mL 投与群	6													
		<p>自家繁殖をする場合 ・実験に使用しない親動物、目的外の遺伝子型動物、目的外の生物の動物等についての安楽死方法も記載</p> <p>細胞移植をする場合 1) (可能な限り)細胞名、投与量(細胞数)、溶媒、移植部位を記載 2) 腫瘍の形成を人道的エンドポイントの指標とする場合、腫瘍サイズ(長さ(mm))あるいは重量(体重に対する割合(%))を具体的に記載</p>												

動物実験計画書チェックリスト

動物実験計画書を作成するには以下の項目をご確認し、その上で、動物実験計画書を生物研究推進課 (kokubo.toshiaki@qst.go.jp) へご提出ください。未対応のまま提出しなければならない項目については、対応できない理由を動物実験計画書に明記してください。なお、このチェックリストは提出不要です。

	該当する 計画書の欄	項目	確認
1	動物実験実施者名 及び所属	動物実験実施者の採用、異動、退職等の情報が更新されているか。実験動物取扱従事者として登録が済んでいるか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
2	実験実施期間	承認後、中長期計画内で最長5年となっているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
3	施設等	実験動物施設：飼養する動物種、実験内容に合致しているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
4	施設等	動物実験室：すべて承認が得られているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
5	特殊実験区分	必要な資料・情報が添付されているか。(添付資料の記載内容に変更がなければ、新規申請時のみで良い。)	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
6	動物に対する苦痛 の軽減、実験動物 の安楽死方法、実 験方法	麻酔薬として、ジエチルエーテル（吸入麻酔）は使用していないか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
7	動物に対する苦痛 の軽減、実験動物 の安楽死方法、実 験方法	ペントバルビタールナトリウム（薬品名：ソムノペンチル）の使用について 1) 単独投与による外科処置麻酔は行っていないか。 2) 安楽死させる場合（固定液による灌流処置を含む）の単独投与では、投与用量が適切になっているか。（致死量を超える用量、例えばマウスで100～150mg/kg以上） 3) 照射等で鎮静あるいは不動化を目的として使用する場合は、「麻酔」ではなく「鎮静」という表現になっているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
8	動物に対する苦痛 の軽減、実験動物 の安楽死方法、実 験方法	麻酔薬として、医薬品以外の薬剤を使用していないか。（例えばアバチン（トリブモロエタノール）など）	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
9	実験動物の安楽死 方法	無麻酔での頸椎脱臼及び断首を選択した場合、その理由は、実験データにどのような影響があるか具体的に書かれているか。（「麻酔の影響を避けるため」だけでは不可。）	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
10	実験動物の安楽死 方法	麻酔薬の過剰投与による安楽死以外で麻酔薬を使用する場合（深麻酔下での放血死あるいは灌流等）、「その他」を選択しているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
11	実験動物の安楽死 方法、実験方法	麻酔薬の投与用量（mg/kg, 吸入麻酔の場合は%）は記載されているか。またその投与用量は適切か。（処置後に覚醒させる麻酔と安楽死目的の深麻酔で使い分けができていないか。）	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
12	実験動物導入申請 の確認	導入申請の手続き状況が不足なく、正しく記載されているか。輸送業者が記載されているか。（未定の場合は「未定」と記載する）	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
13	その他必要または 参考事項	動物の搬出について、輸送業者が記載されているか。（未定の場合は「未定」と記載する）	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず

14	使用動物	使用動物数の算出方法が分かりやすい計算式で記載されているか。実験方法中の記載から算出できる数と相違はないか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
15	使用動物	系統名が正しく記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
16	使用動物	雌雄不問の場合、それが分かるような記載となっているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
17	実験方法	共同研究機関（モデル動物の作製、処置動物の搬出など）における動物実験計画の承認が得られているか。承認番号が記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
18	実験方法	使用動物数の算出方法が分かりやすい表記（例えば分かりやすい表）で記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
19	実験方法	実験処置ごとに使用施設（実験動物施設、動物実験室）が分かるような記載となっているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
20	実験方法	搬入から安楽死処置（動物実験の終わり）までが記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
21	実験方法	搬入後、適切な馴化期間が設けられているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
22	実験方法	放射線照射について 1) 放射線の種類が記載されているか。 2) 照射線量が記載されているか。 3) 線量率あるいは照射に要する時間が記載されているか。（拘束時間の算出） 4) 照射から次の処置までの経過時間が分かるような記載となっているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
23	実験方法	自家繁殖をする場合、実験に使用しない親動物、目的外の遺伝子型動物、目的外の性別の動物等についての安楽死方法が記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
24	実験方法	投与処置について 1)（可能な限り）物質名、投与用量、溶媒が記載されているか。 2) 投与から次の処置までの経過時間が分かるような記載となっているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
25	実験方法	細胞移植について 1)（可能な限り）細胞名、投与量（細胞数）、溶媒が記載されているか。 2) 腫瘍の形成を人道的エンドポイントの指標とする場合、腫瘍サイズ（長径(mm)）あるいは重量（体重に対する割合(%)）を具体的に記載しているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
26	実験方法	苦痛のカテゴリーがすべての実験処置に記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
27	実験方法	苦痛のカテゴリーがCあるいはDの場合、苦痛の軽減・排除方法あるいは適切な人道的エンドポイントの設置がされているか。またそれらは、「動物に対する苦痛の軽減」欄、「<人道的エンドポイントを適用した安楽死>」欄に記載された内容と相違はないか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず
28	実験方法	人道的エンドポイントで体重減少を指標としている場合、具体的に「○日間で○%の減少」等と記載されているか。実験方法中に体重測定の頻度が記載されているか。	<input type="checkbox"/> 対応済み <input type="checkbox"/> 未対応 <input type="checkbox"/> 該当せず

苦痛のカテゴリー分類基準

カテゴリー	事 例
<p>カテゴリーA</p> <p>生物個体を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は無脊椎動物を用いた実験 (放医研では申請の必要のない実験)</p>	<p>1) 生化学的、植物学的研究、細菌学的研究、微生物学的研究、無脊椎動物を用いた研究、組織培養、剖検により得られた組織を用いた研究、屠場から得られた組織を用いた研究。発育鶏卵を用いた研究。</p> <p>◎無脊椎動物も神経系を持っており、刺激に反応する。従って無脊椎動物も人道的に扱われなければならない。</p>
<p>カテゴリーB</p> <p>脊椎動物を用いた研究で、動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作 (カテゴリーB以上では魚類を用いた実験も含める)</p>	<p>1) 重篤な症状が予想されない実験。 例えば放射線照射、放射化薬剤投与において、照射ないし投与後もほとんど動物に不快感がなく、苦痛、障害もほとんど生じないこと。</p> <p>2) 実験の目的のために動物をつかんで保定すること。</p> <p>3) 麻酔薬投与の目的でサルを挾体装置で保定すること。</p> <p>4) 注射や採血などの簡単な処置。 例えば、健康診断のための最小限度の拘束。薬物の投与などの注射、採血、脳波、心電図、筋電図の測定などが挙げられる。また個体識別(耳パンチ、耳カット、マイクロチップなど)、腫瘍細胞の皮下移植、腹腔内移植なども含まれる。</p> <p>5) 深麻酔下で処置し、処置後に不快感を伴わないこと、覚醒をさせずに安楽死させる実験。</p> <p>6) 急速に意識を消失させる標準的な安楽死法。 例えば、麻酔薬の過剰投与、軽麻酔下あるいは鎮静下での頸椎脱臼や断首など。なお無麻酔での頸椎脱臼、断首は、実験上必要不可欠なものと認められた場合のみ行うこととし、またその作業は熟練者が行う。</p> <p>7) 短時間の絶食絶水。 動物種によって代謝時間が異なることから、許容される絶食・絶水時間の長さを一律に定めることはできない。麻酔の前処置あるいは血液生化学検査のための採血等のために十数時間程度までの絶食(水は自由摂取)を行うことは認められる。長時間の絶食は、絶食以上に動物の生理状態や代謝に影響することから特に注意を要する。</p>
<p>カテゴリーC</p> <p>脊椎動物を用いた実験で、動物に対して軽微なストレスあるいは痛み(短時間持続する痛み)を伴う実験</p>	<p>1) ごく軽度の放射線障害をひきおこす場合。 放射線照射により動物に苦痛、消化管、骨髄、脳などの主要臓器や生体機能に軽度の障害(例えばごく軽度の貧血、免疫力の低下、発赤、軟便など)がみられる場合。</p> <p>2) 麻酔下における外科的処置で、処置後も多少の不快感を伴うもの。 例えば、処置後の苦痛の程度が軽微な開腹手術、開胸手術、開頭手術、整形外科的手術が該当する。術後管理には配慮すべきであり、特にイヌ、ネコ、霊長類等においては、臨床獣医学的な術後管理を目指すべきである。 体内に電極等の器具を埋め込む場合にも、麻酔下で無菌的に行われなければならない。術後の苦痛あるいは感染症を予防するために鎮痛剤や抗生物質の投与が考慮されるべきである。麻酔薬、鎮痛剤および鎮静剤の選択と投与量は、動物種によって異なるため、その動物種に適したもの、さらに実験の目的に適したものを使用する。</p> <p>3) 短時間の動物の保定(拘束)またはストレスが生体に及ぼす影響を調べるための実験。</p>

	<p>例えば、拘束ストレス負荷後の血中ホルモン濃度の変化の測定。モンキーチェアやボールマンケージを用いる実験はこれに該当し、拘束器具への馴化、拘束期間中の監視あるいは頻繁な観察、実験の中断や終了時期の判断に配慮すべきである。情動的反応が高い霊長類などにおいては特に注意を要する。モンキーチェアへの保定は、3時間以内とする。なお、拘束器具への馴化が十分に行われており、かつ飲食等が実験中に可能である条件を満たしていれば、拘束時間を5時間以内とする。</p> <p>4) 麻酔下での眼窩採血。 主にラット、マウスが対象となるが、可能な限りこの手法は避けるべきである。連続採血をする場合は2週間以上間隔をあける必要がある。</p> <p>5) 麻酔下で血管を露出させること、あるいはカテーテルを長期間留置すること。 これらの処置を行うに当たっては、術後の感染防止に配慮する。処置後に動物の意識を回復させない実験はカテゴリ-Bに含める。</p> <p>6) フロイントのインコンプリートアジュバントを用いた免疫実験。</p> <p>7) 苦痛を伴うが、それから逃れられる刺激。 該当する実験には麻酔薬や鎮痛薬の効果を調べるためのテイルフリック試験、ホットプレート試験、電気ショックを用いたプリンチジャンプ試験、つまみ試験などが含まれる。このような試験において動物に与える苦痛は効果を判定出来る最小限の苦痛でかつ、必要最小の時間で行うように制限する。例えば、ホットプレート試験では温度を50℃以上にする必要があるが、動物の肢組織の損傷を避けるために上限は70℃以下とすることが一つの目安と考えられる。この種の実験のポイントは、苦痛を起こす刺激からの回避が可能なことである。実験装置の不具合等により刺激からの回避が不可能になると、実験の目的以外の苦痛を強いるので特に注意が必要。</p> <p>◎カテゴリ-Cに属する実験を行う場合には、研究者は、ストレスや痛みの程度、持続時間に応じた配慮が必要となる。</p>
--	---

<p>カテゴリ-D</p> <p>脊椎動物を用いた実験で、避けることのできない重度のストレスや痛みを伴う実験</p>	<p>1) 強い放射線障害をひきおこす場合。 放射線照射により消化管、骨髄、脳などの主要臓器や生体機能に重度の障害が惹起される場合（例えば激しい下痢、脱水、脱毛、皮膚の潰瘍、不妊、発がんなど）、またこれらの変化よりも軽度の障害であっても回復性が見込めない変化は含める。LD_{50/30} (lethal dose 50/30) 付近の放射線を照射する場合には、動物種、系統、年齢、および他の条件により半数致死線量に変化するので、これらのことも配慮すべきである。放射線照射により動物に著しい苦痛や障害が予想される場合は、できる限り早い時期を人道的エンドポイントにする配慮が必要となる。</p> <p>2) 苦痛を伴い刺激を与える実験で、動物がその刺激から逃れられない場合。 例えば、痛みの研究に関する実験があげられる。また、感染実験、重篤な疾患モデル動物の作出（例として心不全モデル動物作出、パーキンソン病モデル動物作出）などもこの中に含まれる。さらに、環境中の重力の場、照明、騒音、温度、湿度、大気圧、酸素などを変更する実験もその環境から逃れられないという点でこの中に含まれる。ただし、処置により重度な痛み、ストレスあるいは障害が生じなければカテゴリ-Dに相当しない。</p> <p>3) 麻酔薬を使用しないで痛みを与えること。 例えば、動物が激しい苦悶の表情を示す場合。ある種の注射、ストレ</p>
---	---

	<p>スやショックの研究など。放置すれば死に至るような発癌実験あるいは腫瘍の移植実験、感染実験、重篤な病気の疾患モデル動物（遺伝子改変動物を含む）を用いた実験、生体に対し作用の強い化学物質の投与実験などがある。このような実験においては、できるだけ早い時期を人道的エンドポイントにして、動物が被る苦痛やストレスを最小限に抑えるべきである。頻繁な観察により苦痛の徴候を判断し、実験目的の範囲で苦痛軽減の処置や安楽死を施す。例えば、腫瘍が体重の10%を超えた場合、急激な体重減少（数日間で20%以上の減少）、対照動物と比較し20%以上の体重が減少した場合、自ら摂餌・飲水が出来なくなった場合、著しい出血により極度の貧血状態に陥った場合、回復が見込めない瘻管・麻痺を起している場合等に、安楽死を考慮すべきである。それができない場合には、実験の正当性を実験計画書に詳述する必要がある。</p> <p>4) 長時間にわたって動物の身体を保定（拘束）すること。 例えば、モンキーチェアやボールマンケージを用いる実験はこれに該当する。長期にわたる拘束は避けるべきであるが、動物を長期間にわたり拘束しなければならない場合には、摂餌、飲水、排泄など動物にとって生物学的に必要な行動を可能とさせ、動物種によっては適度な運動を与えるべきである。拘束器具への馴化、拘束期間中の監視あるいは頻繁な観察、実験の中断や終了の時期の判断に特に配慮し、拘束による障害が見られる場合には、動物を拘束器具から解放するか、あるいは拘束方法を改善しなければならない。なおモンキーチェアへの保定は、5時間以上8時間拘束時間以内とする。</p> <p>5) 麻酔下における外科的処置で、処置後に著しい不快感を伴う場合。苦痛を伴う解剖学的あるいは生理学的欠損あるいは障害を起こすこと。 例えば、処置後の苦痛の程度が顕著な開腹手術、開胸手術、開頭手術、整形外科的手術が該当する。また、同じ動物に対してこのような処置を複数箇所に加えることは慎むべきである。</p> <p>6) 行動面に故意にストレスを加え、その影響を調べること。 例えば、行動ストレスとして、強制走行、強制水泳、あるいは運動制限（半重力下の懸垂実験）などが相当し、ストレスの効果として筋肉の解剖学的あるいは生理学的変化をみる実験などが該当する。睡眠行動や食餌行動を変化させ、その効果をみる実験においても、重度のストレスや痛みを伴う実験であれば該当する。動物が被るストレスは実験目的を達成するために必要最小限のものとしなければならない。</p> <p>7) 本来の母親の代わりに不適切な代理母を与えること。 マウス、ラット、ウサギ等では、代理母を与えることは一般に行われており、カテゴリ-Dには相当しない。しかし、この処置は、緊密かつ長期間の親子関係を構築する霊長類において、特に配慮が必要となる。</p> <p>8) 攻撃的な行動をとらせ、自分自身あるいは同種他個体を損傷させること。</p> <p>9) フロイントのコンプリートアジュバントを用いた免疫実験。</p> <p>◎カテゴリ-D に属する実験を行う場合には、試験申請者は、動物に対する苦痛を最小限のものにするために、あるいは苦痛を排除するために、別の方法がないか検討する責任がある。またカテゴリ-C または D の判断については、実験処置の必要性や代替手段の有無、苦痛軽減のための配慮、研究の社会的意義などについて、試験申請者は十分な説明を試験計画書に記載し、委員会はその妥当性を判断しなければならない。</p>
<p>カテゴリ-E</p>	<p>1) 手術する際に麻酔薬を使わず、単に動物を動かなくすることを目的として筋</p>

<p>麻酔していない意識のある動物を用いて、動物が耐えることのできる最大の痛み、あるいはそれ以上の痛みを与えるような処置</p>	<p>弛緩薬あるいは麻痺性薬剤、例えばサクシニルコリンあるいはその他のクラール様作用を持つ薬剤を使うこと。</p> <p>2) 麻酔していない動物に重度の火傷や外傷をひきおこすこと。</p> <p>3) 精神病のような行動をおこさせること。 イヌ、ネコ、霊長類などの高度の情動反応を示す動物に対して極度のストレスを加えることにより、精神病のような行動をおこさせる実験。</p> <p>4) 家庭用の電子レンジあるいはストリキニーネを用いて殺すこと。</p> <p>5) 避けることのできない重度のストレスを与えること。ストレスを与えて殺すこと。動物を叩いたり、押しつぶしたりして殺すこともこの中に含まれる。</p> <p>◎ここに属する実験は、それによって得られる結果が重要なものであっても、決して行ってはならない。</p>
--	--

作成要領

(様式1の5b) 【HIMAC 共同利用研究用】

課題番号① 24H-999)

継続
新規

⑰

放射線発生装置使用施設Ⅲ 使用計画書

〔重粒子線棟〕

② 平成 24年 1月 7日

放射線安全課長 殿

下記の内容により、放射線発生装置を使用したいので承認願います。

③ 課題代表者 所属 都府大学 宇宙物理研究科 氏名 歌代 大兵

④ 放医研対応者 所属 物理工学部 (内線 68XX) 氏名 羽井 真久

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯

1. 使用目的等 ※以下、該当しない箇所は斜線を引くこと。

(課題名) 重粒子線を用いて各種解析を行いその効果を確認する ⑤

(使用目的)

1. HIMAC を使用して重粒子線を測定器に照射し線量を測定する ⑥

2. 得たデータから重粒子子のエネルギー特性を確認する

(使用内容) 1. ターゲットして、各種測定器を設置する ⑦

2. C, N, Feビームを最大粒子数で30sec 照射する

3. 測定できたデータをコンピュータで解析し分布を調べる

4. どの状態のビームが測定に最適かその効果を確認する

(注) ⑧ 使用室名	被照射物	放射化の予想核種及び予想数量	
中エネルギー照射室	⑨ 各種測定機器 (GM, Ge, NaI)	核種:	数量: Bq
物理・汎用照射室		核種: ⑩	数量: Bq
生物照射室		核種:	数量: Bq
2次ビーム照射室		核種:	数量: Bq

(注) 該当する箇所に○を記入し、「被照射物」、「放射化の予想核種及び予想数量」を記入してください。

2. 管理区域内への持ち込み又は管理区域外への持ち出しの有無 (被照射物)

⑪ 持ち込みの有無	有りの場合		
	管理区域内に保管 (室名、保管期間等を記入)	管理区域内で廃棄 (室名等を記入)	管理区域外へ持ち出し (有の場合、下欄に詳細を記入)
有・無			
⑫ 持ち出しの有無	被照射物の名称	⑬ 運搬先	⑭ 運搬の方法
有・無			

※管理区域からの持ち出しの際には、放射線安全課による持ち出しサーベイを受ける必要があります。

3. 放射性廃棄物

放射性廃棄物の有無	⑮ 放射性廃棄物の内容
有・無	可燃・難燃・不燃・動物・その他 ()

受付年月日 / / 受付番号 No. -

項目	記入方法
① 課題番号	課題番号を記入
②	使用計画書の提出日を記入
③ 課題代表者	所属(〇〇大学△△学部××教室等)、氏名及び確認印を捺印
④ 放医研対応者	放医研側での受入れ窓口となっている職員の所属、氏名を記入し、確認印を捺印する(但し、放医研担当者が放医研職員である場合は「同上」とする)
⑤ 課題名	研究課題名を記入
⑥ 使用目的	課題の目的を簡潔に記入
⑦ 使用内容	実験作業内容を分かりやすく(専門用語や略記号等には注釈を付ける)記入。必要に応じて別紙に記入し添付すること
⑧ 使用室名	実験で使用する照射室名に○を付ける
⑨ 被照射物 (ターゲット)	【被照射物】の場合、試料の素材及び大きさを出来る限り詳しく記述する。 【被照射動物】の場合、動物名及び匹数を記入する。
⑩ 放射化の予想核種及び予想数量	被照射物の予想される生成物の核種と数量を出来る限り記入する。必要に応じて別紙に記入し添付する
⑪ 持ち込みの有無	管理区域への被照射物の持ち込みの有無について該当箇所を○で囲み、持ち込み有の場合は内容を具体的に記入
⑫ 持ち出しの有無	管理区域からの被照射物の持ち出しの有無について該当箇所を○で囲み、持ち出し有の場合は内容を具体的に記入(⑬⑭も参照する)
⑬ 運搬先	運搬先を記入。放医研内の場合は、研究棟名及び室名まで記入
⑭ 運搬の方法	運搬方法を記入。業者委託の場合は業者名を記入
⑮ 廃棄物の有無	放射性廃棄物の有無について該当箇所を○で囲む
⑯ 廃棄物の内容	放射性廃棄物区分の該当箇所を○で囲み内容を具体的に記入
⑰ 継続・新規	『新規』とは、以前の作業計画書とエネルギーアップ、イオン種の変更、作業内容等が異なる場合。『継続』とは、『新規』に該当せず以前に作業計画書を提出している場合。

【注】提出日(②)及び継続・新規の別(⑰)の未記載が非常に多いので、必ず記載してください。また、課題代表者(③)及び放医研対応者(④)の印が抜けていることが多いので必ず確認してください。外国の方は、サインで構いません。

⑱ 4. ビーム使用条件

【エネルギー】(該当するイオン種、エネルギーを○で囲む。)

エネルギー(MeV/u)				
イオン種	中核核種 ビーム照射室	物理・汎用照射室	生物照射室	2次ビーム照射室
He	6	100 180 230	150	100 180 230
C	6	100 180 230 290 350 400 300	135 290 350 400	100 180 230 290 350 400 430
N	6	100 180 230 290 350 400 430		100 180 230 290 350 400 430
O	6	100 180 230 290 350 400 430		100 180 230 290 350 400 430
Ne	6	100 180 230 290 350 400 430 600	230 400	100 180 230 290 350 400 430 600
Si	6	100 180 230 290 350 400 430 600 800	490	100 180 230 290 350 400 430 600 800
Ar	6	290 400 650	500	290 400 650
Fe	6	500	500	500

⑲ 【粒子数】(該当する粒子数を、○で囲む。)

粒子数(pps)				
イオン種	中核核種 ビーム照射室	物理・汎用照射室	生物照射室	2次ビーム照射室
He	2.0×10^{12}	1.2×10^{10}	1.2×10^{10}	4.0×10^7
C	2.0×10^{12}	1.8×10^9	2.0×10^9	6.0×10^6
N	2.0×10^{12}	1.5×10^9	1.7×10^9	5.0×10^6
O	2.0×10^{12}	1.1×10^9	1.2×10^9	3.7×10^6
Ne	2.0×10^{12}	7.8×10^8	8.5×10^8	2.6×10^6
Si	2.0×10^{12}	4.0×10^8	4.4×10^8	1.3×10^6
Ar	2.0×10^{12}	2.4×10^8	2.7×10^8	8.0×10^5
Fe	2.0×10^{12}	2.5×10^8	2.5×10^8	8.3×10^5

(注) 表中の粒子数(pps)は、最大使用承認粒子数であり、実際に利用出来る粒子数は、各照射室の粒子数以下になります。

項目	記入方法
⑱ エネルギー	使用するイオン種及び該当する最大エネルギーを○で囲む
⑲ 粒子数	使用するイオン種に該当する粒子数を○で囲む。表内の粒子数は使用するイオン種に対する最大値で記載

※実験で使用したターゲット(被照射物)を管理区域から持ち出す場合は、持出し時に重粒子線棟安全管理室(6655)または、管理業務室(6680/6681)までご連絡ください。

⑳ 実験参加者

作業責任者 (注1)	業務従事者 (注2,3)	氏名	E-Mailアドレス (注4)	所属機関名	区分 (注5)
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	歌代 大兵	kada@maillad.ne.jp	都有大学	A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
	<input type="checkbox"/>	羽井 真久	hai_mac@nirs.go.jp	放医研	A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
	<input type="checkbox"/>	傘華 沙	san@maillad.ne.jp	都有大学	A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
					A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
					A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
					A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
					A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
					A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
					A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L
					A・B・C・D・E・F・ G・H・I・J・K・L

(注1) 実際に作業に参加する人の中で、作業グループを代表する責任者を決めて、○を付けて下さい。課題代表者と違っても構いません。マシントイム毎に違った作業責任者になる場合は、全ての作業責任者に○を付けて下さい。

(注2) 放医研において「放射線業務従事者」の登録が終了している人に○を付けて下さい。

(注3) これから、放医研において「放射線業務従事者」の登録を予定している人に△を付けて下さい。

(注4) メールアドレスをお持ちの方は記入してください。

(注5) 放医研において、該当する区分を下記より選び、アルファベットを○で囲って下さい。なお、どの区分に該当するかは、放医研からの辞令及び通知書により確認して下さい。

A: 定年制職員・任期制職員	F: 協力研究員	K: 指名研究員
B: 共同利用研究員	G: 博士研究員	L: その他 ()
C: 客員研究員	H: 招聘外国人研究員	
D: 連携大学院生	I: 学振外国人研究員	
E: 実習生	J: 大学院課程研究員	

※実験日までに、放医研において「放射線業務従事者」の登録をされていない方は、この実験参加者名簿に名前が記載されていても実験に参加出来ません。

項目	記入方法
⑳ 実験参加者	用紙内の注釈に従って記入